北海道 国際理解教育研究協議会 会報

第３１号
会　長　大泉　弘
事務局長　石田省子
発行1995年 2月17日

第１５回北海道国際理解教育研究大会石狩大会終了の報告

～お礼にかえて～

石狩管内国際理解教育研究協議会　会長　藤川正吾

平成６年１１月１０日、１１日の両日に亘って、第１５回北海道国際理解教育研究大会石狩大会が歴史と躍動の街、石狩町で開催されました。

好天にも恵まれ、全道各地から３００余名のご熱心な会員の方々と、全海研の小川副会長をはじめ各関係機関の皆様の温かいご指導やご助言を賜わり、無事終了することができましたことにまず心から感謝を申し上げます。

おかげを持ちまして、第１４回釧路大会までの長い研究の成果と流れを継承しながら、大会主題を「豊かでたくましい心をもち、世界に目を開く子供の育成」と定め、昨年に引き続き幼・小・中・高校の授業公開と三分科会（六部会）による研究協議を進め、多くの成果を積み上げることのできたことを喜びとしているところです。

特に、国際理解教育の理念等の構築が求められている折から、次のような国際理解教育の基本目標と構造化について大胆な基調報告をさせていただきました。

1．平和を愛する心の育成
2．人権意識の涵養
3．自国認識と国民的自覚の形成
4．他国・他文化への理解・認識と寛容等の態度の育成
5．国際的なコミュニケーション能力や表現力の育成
6．国際的な礼儀作法や教養等の習得
7．外国（人）との交流意欲や態度の育成
8．世界的相互依存関係増大への認識の形成
9．世界的諸問題解決への参画意識や態度の育成
10．国際的な協力・協調への実践的態度の育成

今後は、教師自身のたゆまぬ教育姿勢と新しい学力観に盛り込まれた国際理解教育の内容が教育課程に位置づけられ、実践されることが大きな課題として残されました。

次年度の旭川大会では、この課題解決に向けての実践が全道各地から持ち寄られることを期待し、お礼のご挨拶とさせていただきます。

各地区の研究報告

檜山管内国際理解教育研究大会の報告

道南の地にて実践研究を積み上げられている桧山支部より管内研究大会，会報など今年度の研究を報告していただきました。今回の今金町神丘小学校を会場としての研究大会も１２回を数え年々充実した研究については高い評価を得ています。平成５，６年度の研究を集約した研究紀要が今年度中に発行の予定です。

大会主題　『学校や地域に応じた国際理解教育をどうすすめるか』

平成６年９月９日（金）　会場・協力校　今金町立神丘小学校

主催　桧山管内国際理解教育研究会
後援　北海道教育庁桧山教育局
今金町教育委員会
桧山管内教育研究団体協議会
授業公開　『国際交流作文交流会』
指導者　今金町立神丘小学校教諭
斎藤ゆき子　中山康子　児玉秀雄
講評　北海道教育庁桧山教育局
義務教育指導班指導主事
山内　秀治　氏
研究発表　国際理解教育に関する調査から
研究部長　山本　善保
講演　『地域における国際交流』
講師　今金町教育委員会
中島　光弘　氏

平成　6　年度
第１号
第6回　平成6年　5月23日

檜山管内国際理解教育研究会
会　報

今年度も　Think Globally　Act Locally

５月１０日（火）午後３時より，江差小学校におきまして本会の総会を開催いたしました。７名の会員が出席し，今年度の事業計画等で活発な話し合いが行なわれました。総会決定事項は次の通りです。

総会　議案　第十　回

1　研究主題　学校や地域に応じた国際理解教育をどう進めるか
2　事業内容
(1)　学校や地域における国際理解教育の進め方の研究
①　国際理解教育を教育課程の中へどう取り入れていくか
②　管内的な取り組みの実態把握
③　地域における国際理解教育の推進
(2)　海外教育事情についての研修
①　在外教育施設ならびに海外研修視察報告会の開催
②　全道・全国研究会への参加
③　渡島管内国際理解教育研究会との連携・協力
④　三地区合同研修会の参加
(3)　本会の目的に合致する事業の推進
①　ユニセフ活動への協力
②　北海道国際交流センター事業への協力
③　地域社会への啓蒙
④　他団体との交流
⑤　紀要と会報の発行
3　事業計画

４月２７日	研究部会
５月１０日	総会
５月２３日	会報第１号の発行
８月	三地区合同研修会
９月　９日	管内研究会（今金町）
１０月	研究紀要の発行
	会報第２号の発行
１１月１０日～１１日	北海道国際理解教育研究大会石狩大会
１２月	会報第３号の発行

紀要の発行について

研究紀要の発行は，昨年度の事業予定でしたが，震災による活動の出遅れから，今年度の研究大会終了後といたしました。

釧路地方国際理解教育研究大会の報告

ラムサール条約締結国際会議，平成５年度の全道大会と国際化に向け一歩を踏み出した釧路支部より今年度も内容の充実した活動報告が届いております。

６月１８日の総会・報告会の後を受け　昨年度の全道大会の成果を生かし平成６年１２月９日（金）昨年と同じく　釧路市生涯学習センターにて釧路地方際理解教育研究会が開催されました。参加者は８３名を越え充実した研究の成果を上げることができました。

授業をなされた　釧路市立日進小学校・共栄中学校の大島正実・高尾稔先生本当にご苦労さまでした。

さらに，釧路地方在住の２７５世帯，３７５人の外国人の方々の中から講師をお願いし，日本を釧路を多いに語ってもらおうという新しい企画として『ＭＥＳＳＡＧＥ　ＴＯ　くしろ・日本　』を計画しています。

事業名　『ＭＥＳＳＡＧＥ　ＴＯ　くしろ・日本』
～異文化に触れていただく展示会～

平成７年２月１８日（土）　　於　釧路市生涯学習センター

主催　釧路地方国際理解教育研究会

後援　北海道教育庁釧路教育局　釧路市教育委員会
釧路町村教育委員会連絡協議会

講師　ローラ　田守　（カナダ　釧路公立大学　客員教授　）
ゴードン・ウイルソン　（米国　北海道教育大学講師　）
李　美珍　（韓国　釧路地方際理解教育研究会
釧路緑が岡高等学校２年　）

十勝地区国際理解教育研究大会の報告

大会主題　学校や地域における国際理解教育をどうすすめるか

日時　平成６年１２月６日（金）

主催　十勝地区国際理解教育研究会

後援　北海道教育庁十勝教育局　　協力校　豊頃町立茂岩小学校
豊頃町教育委員会

授業公開　家庭科　６年　『調理の工夫をしよう』
指導者　豊頃町立茂岩小学校　　鎌田　一寿　教諭

全体会　『教育課程の位置づけと各小学校での進め方について』

十勝毎日新聞（H6.12.6）

国際理解教育のすそ野拡大を

十勝地区の研究会「指導計画」で提言

文部省が「国際理解教育」を進め、十勝管内でも各学校その取り組みが求められている。だが、教育現場では「根幹となるものが見えにくい」などの声が聞かれ、実践がまだ進んでいないのが現状。十勝地区国際理解教育研究会（会長・寺本西明寺小校長）はこのほど「国際理解教育推進の指導計画」を作成し、豊頃町茂岩小学校で行われた「第十回国際理解教育研究大会」の席上、出席者らに提案して、国際理解教育のすそ野をどのように広げ深めるか、その取り組みが話合われた。

国際理解教育は、自国の歴史や伝統を理解するとともに、「相手を尊重する心」の育成も、他国の文化の理解などにとどまらず、教育活動全体を通じて、環境保護対策の基本方針にも盛り込まれている。

「国際理解の推進」が掲げられている。

十勝管内では、各校の教育課程を検討した教員らが中心となり、昭和五十四年、同会を設け、毎年一回、研究会を開くなど活動を展開している。しかし、研究会の席上でも「どう進めて良いか分からない」（女性教師）との声があるなど、国際理解教育の進め方がわからない教師が多数を占め、そこまで手が回らないなどの課題が発表される。

同会は「国際理解教育の研修」「国際理解教育の展開」など四年間の取り組み

「世界の中の日本」「国際理解教育」などを重要性を強調した。

人を招いて展示やイベントなどの交流が国際理解教育にも考えていく必要があるが、しかし、たりないもの、あらゆる機会を捉えて国際理解をすすめることが大事だと考える。西尾氏は、家庭科の授業では、南米ルートに国際電話をかけ、日系人と会話するなどの、関連業を行っていきたい。

今回、提案された指導計画は「触れる」（低）、「同等の指導」（三次）、「深める」（三次）、「広める」（四次）を第一テーマとして「国際理解教育の研修」「国際理解教育の展開」など四年間の取り組み。

同会は「まだまだ、やってみよう、という段階。十勝管内のどの学校でも計画実践できる」とまとめ、目指したい方向を示した。

学校の活動を お寄せ下さい

【教育担当課から】

子供と教師、また、教師相互が、悩み、相談を共にしながら成長していきます。教育、教師の場、生活面等の悩み、学校の活動などを長寿庁（帯広市東一条八、十勝毎日新聞社、ファクシミリ　〒〇〇〇）へ、ご連絡ください。

子供と教育

近況報告

根室支部　標津小学校の細見校長先生より１２月６日に行われた『国際交流体験発表と講演・の夕べ』の様子がたくさんの資料とともに届いております。『ロシア青少年との交流発表』『カナダへの中学生派遣体験発表』さらに先生ご自身の北京での日本人学校長としての体験に基づく講演など盛りだくさんの内容でした。

日高支部　現在６名の会員が日高管内における国際理解教育の推進役として活躍されています。さらに１０年にわたり管内の海外教育事情研究会との連携を深めながら日頃の実践にあたられているとのことです。今後ともさらなる活躍を期待いたします。

宗谷支部　現在会員１名の頓別小学校の庄司校長先生からも近況報告が届いております。来年度はニューデリー日本人学校よりの帰国の先生もいらしゃるとのことです。活躍を祈念いたします。

札幌国際理解教育研究会の活動報告

平成６年５月７日　＜帰国報告会＞　　札幌市立北九条小学校

国際学級にたずさわり　　札幌市立美しが丘小学校教諭　吉田　博

補習校の勤務をおえて　　札幌市立常盤中学校教頭　　大潟　勝

平成６年８月２７日　＜第１０回札幌国際理解教育研究大会＞

主催　札幌国際理解教育研究会　　共催　札幌市立二条小学校

後援　北海道国際理解教育研究協議会　札幌市教育委員会

札幌市姉妹校連絡協議会　札幌国際プラザ　北海道通信社

研究主題　『国際社会に生きる日本人の育成』

授業公開　４年　社会　「わたしたちのほっかいどう」　授業者　宮本　由美　教諭

分科会　「国際理解教育の授業とは？」　参加者　７０名

平成７年２月１８日　＜SESEﾌｫｰﾗﾑ JAPAN PROJECT'95＞

アメリカ・リトルロック市での学習指導体験研修報告会

主催　SESEの会　…札幌国際理解教育研究会・（社）札幌青年会議所

札幌ユネスコ協会・白石リラの会……

後援　国際プラザ・札幌市教育委員会　・札幌市立小・中・高・学校長会

テーマ　『米国における学校教育のあり方』

JAPAN PROJECT'95として米国アーカンソー州のリトルロック市に1995年1月８日～２９日の期間，札幌市の教員（小・中・高・特殊養護）９名が派遣されました。現地でアシスタント・ティチャーとして「米国における学校教育のあり方」と個々のテーマを通して米国教育の調査研究を行いました。その研究の結果を発表し，地域と学校のあり方とこれからの『札幌の教育』について方向性を考えてみたいと思います。

平成６年８月３日～９日に実施された’94国際ジュニア・アート・キャンプ の様子を紹介します。

International Junior Art Camp

HOKKAIDO, JAPAN; AUGUST 3-9, 1994

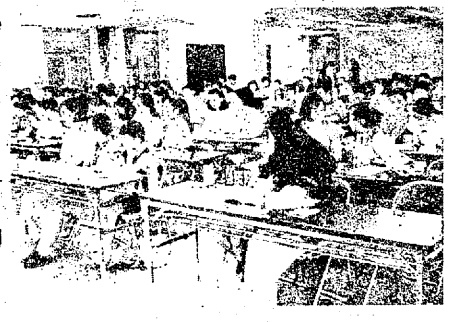
国際理解教育研究協議会よりオリエンテーションに大泉会長・石田事務局長が講師として参加。札幌の池田先生がレクレーション指導を行いました。

7/23(土) 道内ジュニア・キャンプオリエンテーション 国際交流教室

Camp Orientation for Hokkaido Juniors International Exchange Seminar

北海道新聞社入り口受付嬢で参加ジュニア対象のオリエンテーションが行われ、ジュニアたちの受付はじめが始まった。説明会では、北海道国際理解教育研究協議会の先生方による国際交流教室が行われ、文化や言語の違う外国人と手紙による交流の仕方等を学びながら、8日間のキャンプ生活に期待に胸をふくらませていた。

Camp orientation was held for the junior participants and their parents in the meeting room of The Hokkaido Shimbun Press. After that, teachers from the Hokkaido Association of Educational Research in International Understanding gave lessons on exchange activities with counterparts of foreign countries which have different cultures and languages.



8/7(日)・8(月) アートワーク、道内教師との交流（エスコート）

Artwork, Meeting between Escorts and Hokkaido's School Teachers

キャンプのメーンイベント、アートワーク。今年は「みんなでつくる世界恐竜公園」をテーマに、恐竜のレリーフを製作。約3m四方の大きな段ボールに、グループごと恐竜を描いていく。今にも動きだしそうな迫力ある恐竜や、色とりどりのカラフルな恐竜、自分たちだけの恐竜が完成した。出来上がった恐竜は、トマムの森の中にズラリと勢ぞろい。深い緑の中で、自然と一体となったみんなの恐竜は、はるか古代の時代へとみんなを誘い込んでいた。

なお、このカリキュラムの作成と指導は、北海道教育大学の大学院生たちが行った。

また、エスコートは道内の教師7名と交流をした。ほとんどのエスコートは教育関係者であり、教育状況などについて話し合った。

The main program of the Camping-in-Tomamu is artwork. This year, under the theme of "World Dinosaurs Park," they drew dinosaurs on a large sheet of cardboard (3m x 3m) either as they had seen them in books, or created new ones using their imagination. Then they colored them as they pleased. Postgraduate students of the Hokkaido University of Education helped with designs and provided greater assistance.

While the children enjoyed their creations, their adult escorts met seven Japanese school teachers and exchanged opinions on educational systems and other interesting topics.

エスコート（引率教員）との各国の教育事情についての交流会がもたれ札幌支部よりも７名の先生が参加。

＊各支部での研究会などの予定がありましたら事務局までお知らせください。

海外勤務をおえて

網走市立　潮見小学校　　田　中　章　子
（平成３年度　ラス・パルマス日本人学校派遣）

平成３年４月９日，成田を出発して２０時間近くかかって夜９時頃，赴任先であるラス・パルマス市に到着。時差ボケを感じる暇もなく，トランクの荷物もそのままにして，次の日の朝，始業式に出勤したのもつい昨日のことのように思い出されます。

ラス・パルマス市は，アフリカ大陸の北西部，大西洋のモロッコ沖に浮かぶカナリア諸島７島の中のひとつ，グランカナリア島にあります。赴任前は，なぜこんな小さな島に日本人が？と思いました。ここは，タコ，イカを中心とした水産物の買い付け業務の拠点となっており，日本人のほとんどが水産業，または，その関連事業に関わっています。意外なことに，タコは日本での消費量の８割がここから供給されているとのことでした。

ラス・パルマス日本人学校は，昨年度２０周年を迎えた古くて伝統のある学校です。一時期は児童生徒数が，４０名を越えることもあったようですが，年々減少しており，私が赴任してからも２４名，１２名と減り，３年目には小学部８名だけとなってしまいました。子どもの人数と共に派遣される教員の数も減ってきましたが，取り組む行事の数は変わりませんので，必然的に分担される仕事の量は多くなりました。けれども何かある毎に，全職員が一丸となって取り組もうとする良い雰囲気の中で仕事ができ，私にとっては忙しさ＝（イコール）充実した３年間でした。

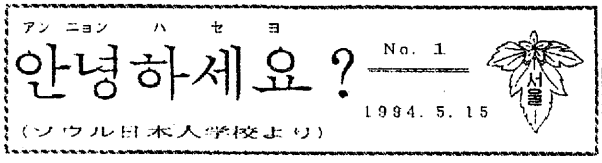
今振り返ってみると，日本にいたときには想像しえなかたことがたくさんありました。特に，植物栽培での気候の問題，学校周辺の治安の問題，施設見学や現地理解学習のための言葉の問題と様々な問題がありました。自分自身の経験という土台がないことだけに，いつもいつも頭を抱えていたような気がします。

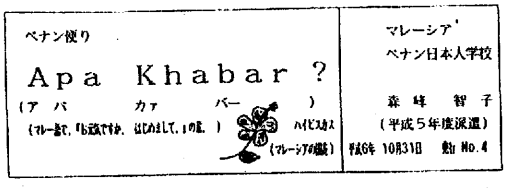
現在，私は１年生の担任をしています。自分の身の回りことで精一杯の一年生ですが，機会がある毎に私がスペインという国で経験したことを話して聞かせています。いつか外国の人達と接する機会に巡り合った時，私が話したことが少しでも役立ってくれればと思っています。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

海外からの便り

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆　＊派遣中の先生方よりお便りが届いてます。





平成６年度派遣　ソウル日本人学校　　石原　基博　先生　より
（帯広市立開西小学校在籍）元気なお便りが参っております。

ショック！橋が落ちる。　日本でも大きく報道されたことと思います。10月21日の朝，学校に着くとビックニュースが飛び込んできました。何と漢江に掛かる橋の一つ聖水（ソンス）大橋が50メートルに渡って崩れ落ち，多数の死傷者（死者３２名）が出たとのことでした。この橋は，普段私たちが買物に行くデパートのシャトルバスの通るコースに入っており，私も何度となく渡っていました。また，この事故の数日前，同僚の先生と『漢江に掛かる橋の７割は欠陥があるそうですね』と話していたばかりだったので，本当に驚きました。　韓国の新聞には，次に危ないのは漢南（ハンナム）大橋だと書いてありました。何と，この橋は私たちが毎日スクールバスで渡っている橋ではありませんか。バスが揺れるたびにドッキとする毎日です。（気のせいか，今までより揺れが大きく感じます。）政府やソウル市の早急な対策を期待しています。

平成５年度派遣　台湾　台北日本人学校　　徳光　茂　先生より
（蘭越町立蘭越中学校在籍）　元気なお便りが参っております。

手製のステージづくりから始まる学芸会設営マニュアル作成など…ご苦労さまです。

平成５年度派遣　釜山日本人学校　　坪内　夕季子　先生　より
（旭川市立啓明小学校在籍）元気なお便りが参っております。

プサン・チュルバルＮｏ23～27の克明なレポートが届いています。

平成５年度派遣　マレーシア　ペナン日本人学校　森峰　智子先生　より
（富良野市立富良野小学校在籍）　元気なお便りが参っております。

開校20周年をむかえるペナン日本人学校の記念式典などの様子が書かれています。

平成５年度派遣　ニューヨーク日本人学校（ニュージャージ分校）　梶原源基先生より
（大樹町立大樹小学校在籍）元気なお便りが参っております。

子どもたちの指導を通して最も頭を悩ませたのは，子どもひとりひとりの学力差からくる，学習指導の困難さと，子どもたちの自主性をいかに培っていくかという２点でした。本校に入学してくる子どもたちは，大別すると，現地の学校から帰国準備のために転入してくる子，日本の学校から，保護者の転勤に伴って転入してくる子の２種類に分けられます。更に，現地の学校から転入してくる子も補習校に通っていた子とそうでない子に分けられ，英語の日常会話ではほとんど困らない子が殆どですが，日本語，特に書くことになると平仮名もあやしい子もいます。また，現地の学校で，人間関係がうまくいかず，転入してくる子も少なくありません。一方，日本から転入してくる子も，学力に大きな差が見られます。……様々な学びの背景を持った子どもたちに対して，どこに基準をおいてどこから教材に切り込んでいくかということは，今の，私にとって，最も大きな課題の一つと言えます……

平成５年度派遣　ロス・アンジェルス補習校　　橋場　仁先生　より
（帯広市立花園小学校在籍）元気でご活躍とのお便りが参っております

アメリカの児童虐待に関する法律にからみ日本人の蒙古斑が問題になってるなど現地ならではの話題がいっぱいです。

平成５年度派遣　ブラジル　マナオス日本人学校　　河野　匡宏先生　より
（広島町立広葉中学校在籍）元気なお便りとたくさんの資料が届いています。

第２４回在伯在外教育施設合同研修会について

全伯研とは，伯とはブラジルのことであり，ブラジルの日本人学校の先生方が一同に会して行う、研究会のことです。ブラジルには，サンパウロ，リオデジャネイロ，ベロオリゾンテ，ベレーン，ビトリア（休校中），そしてマナオスの６校の日本人学校があります。日本人学校が一つの国で６校もあるのはブラジルだけです。それらの学校が輪番制により研究会を開催していきます。……当日は，気温34度，湿度80％の中，全体会の行われた冷房施設のない体育館では，参加者に十分暑さを体験してもらいました。半袖，ノーネクタイでの参加を呼び掛けたのですが，ブラジルへの派遣教員約60名のうち何人かは背広上下での参加，我慢大会にでも出ているようでした。

全伯研全体を通して，我々の努力がむくわれたのか，参加者を初め，学校運営委員会の理事の方からも高い評価をいただきました。ちなみに研究主題は『開かれた日本人学校の在り方』～国際感覚を身につけた子どもの育成を目指して～でした。来年の25回大会は，リオ・デ・ジャネイロで行われます。

＊詳しい資料をご希望の方は事務局までご連絡ください。

平成7年度　在外教育施設派遣教員一覧

管内	所　属	職名	氏　名	派　遣　先		
				国　名	日本人学校名	職名
石狩	札幌市立中央小学校	教諭	川崎　真	ブルネイ	ブルネイ補習校	教諭
	札幌市立平岡南小学校	教諭	廣島　直	インドネシア	バンドン	教諭
空知	月形町立月形小学校	教諭	田中　雅志	カタール	ドーハ	教諭
	新十津川町立大和小学校	教諭	中川　勝美	マレーシア	クアラルンプール	教諭
上川	旭川市啓北中学校	教諭	真鍋　豪	台湾	台北	教諭
	旭川市立忠和小学校	教諭	鎌田　優子	イタリア	ミラノ	教諭
	旭川教育大附小学校	教諭	高木　司	ブラジル	マナオス	教諭
網走	斜里町立朝日小学校	教諭	石田　篤司	南ア連邦	ヨハネスブルク	教諭
胆振	洞爺村立洞爺中学校	校長	鞠子　順一	ブラジル	マナオス	校長
	室蘭市立高平小学校	教諭	堀田　稔	コスタリカ	サン・ホセ	教諭
十勝	帯広市立柏小学校	教諭	久永　恵子	タイ	バンコック	教諭
	池田町立高島小学校	教諭	村松　正仁	台湾	台北	教諭
	帯広市立西小学校	教諭	辻口　悟	ビルマ	ヤンゴン	教諭
釧路	標茶町立標茶中学校	教諭	大森　伸	米国	ロサンジェルス補習校	教諭
	釧路市立山花中学校	教諭	伊藤　賢次	シンガポール	シンガポール	教諭
	釧路町立富原中学校	教諭	荒川　浩一	香港	ホンコン	教諭
根室	中標津町立丸山小学校	教諭	飯田　輝雄	イラン	テヘラン	教諭

派遣おめでとうございます！

3年間のご活躍を期待いたします。

帰国者報告会・派遣教員激励会のお知らせ

平成７年度在外教育施設派遣教員が前記のように内定したとの連絡がありました。来年度は１７名の派遣です。つきましては恒例の道教委との共催の「在外教育施設帰国者報告会」と本会主催の「在外教育施設派遣教員激励会」を下記の通り開催いたします。時節がらお忙しいとは存じますが，派遣者への激励や助言に多くの会員の方に出席していただきたくご案内申し上げます。お忙しいとは思いますが激励会だけでも参加いただければと存じます。

平成６年度　在外教育施設帰国者報告会

日時　平成７年　３月６日（月）午後１時00分～５時30分
会場　ホテル　アカシア　会議室
　　住所　札幌市中央区南１２条西１丁目
　　電話　０１１－５２１－５２１１
主催　北海道教育委員会　北海道国際理解教育研究協議会
日程　12:30　受付　13:00 ～20　開会式　14:30 ～15:30 研究協議
　　15:30 ～17:30　グループ別会議（派遣地域別　＊平成７年度派遣者も参加されます。）

平成７年度　在外教育施設派遣教員激励会

日時　平成７年　３月６日（月）午後６時00分～８時00分
会場　ホテル　アカシア　３Ｆ　はまなすの間
　　住所　札幌市中央区南１２条西１丁目
　　電話　０１１－５２１－５２１１
会費　６０００円
旅費　（自己負担　）　宿泊（自己負担　互助会の宿泊券を利用できます）
申し込み　激励会の申し込みは，３月１日（水）まで葉書（住所，氏名，学校名，電話，派遣経験者の場合は派遣年度，派遣先学校名を記入）で申し込んでください。
　　間にあわない場合には電話でも結構です。
　　なお３月１日（水）以降にキャンセルされる場合は会費はいただきます。

連絡先　澤田　崇　（北海道国際理解教育研究協議会組織部長）
　　昼間　札幌市立伏古北小学校　電話　011-784-3322
　　札幌市東区伏古１１条１丁目２－10
　　夜間　札幌市北区あいの里１条３丁目３の18　電話　011-778-3620

☆☆☆☆　I E　F O R U M　☆☆☆☆

皆さんは、１５０カ国以上、２５００万人が利用しているインターネットという世界中に広がる個人や組織のコンピューター網の存在をご存じだろうか。

Ｗ・Ｗ・Ｗ（ＷＯＲＬＤ　ＷＩＤＥ　ＷＥＢ）という世界中のサイトを効率よく検索するシステムを使い、一人一人が世界中の情報を受け取りまた発信できるものである。現在このインターネットを教育現場に利用しようとする試みを多くみられ、実際に子供達がコンピューターを仲介にして世界各国の情報を交流している学校もある。（ＣＭのなかで日本の小学生が電子メールを使っているのがあったが、あれは事実なのだ。）

私は、これからの教育現場でこのインターネットが注目されてくるのは、当然だと思うが、特に国際理解教育においてはその利用方法を研究しておく必要があると考える。

まず、コミュニュケーションの実践の場としての利用である。このネットワークを使うと瞬時にして世界中の人々と情報を交流することができるということである。国際理解教育において、子供達が、いろいろな人々とどうコミュニケーションを取るかということは大きな命題であると考える。この方法をとれば、実際に外国に行かなくとも、自分が望む異文化の人々と自由に交流する事ができるのである。

次に、子供達が、自分達の力で学習を進めていけるという事である。検索というと自分達が欲しい情報を受け取る事だけを考えるが、このシステムでは自分が情報の発信者として働きかけることも可能である。

最後に忘れてならないのが、子供達ばかりか我々の情報交流の場である。実際に海外に赴任された会員の皆さんは切実に感じてらっしゃると思うが、ある特別な地域を除いては世界の日本人学校との自由な情報交流はできないのが現実だし、国内においても、各地での貴重な実践も研究紀要などで知るのが精一杯である。

実際に人を通しての国際理解教育の実践の場は、これからも当然研究されなければならないが、「情報」を通していかに交流していくかも我々は考えて行かなければならないと考える。インターネットは、確かにまだまだ教育現場に導入するには多くの課題を抱えている。しかし、研究の価値は十分にありそうである。

もし、会員の中で、実際にインターネットを利用している方がいらっしゃったら是非情報の提供をお願いしたい。

図書紹介

国際理解教育の実践化にむけてさまざまな取り組みがされている。全道各地でも、石狩大会での実践発表でも見られるように、言葉の国際理解ではなく、具体的活動をともなった学びとしての国際理解教育の実践が多く見られる。

確かに、「国際理解とは」という目標を整理したり、その概念を整理することは必要なことだと考える。しかし、私達に、一番望まれているのはやはり実践だろう。実践を通して初めて、子供達の学ぶ場としての国際理解教育が成立すると考える。そんな時、やはり、我々の糧となるのは、仲間の実践だろう。

地域に根ざした
国際理解教育実践事例集

全国海外子女教育研究協議会　編著
国際理解教育
編集代表　多田孝志・遠藤伴雄
第一法規出版株式会社

この本は、子供達を自分自身の資質・能力を外に向かって開いて行く日本人に育てるために実践家である私達が何をなすべきかという事を、全国の先生の実践例をもとに示唆してくれている。安易な国際交流や皮相的・観念的実践ではない、子供達が実感をもち心揺さぶられ、感動し、本気で考えられる実践の創造が力強く主張されていると言えよう。
２編からなるこの本は、第Ｉ編には、国際理解教育にたいする基本的な考えが述べられ第II編には、２８編に渡る実践例が掲載されている。（本道からも札幌市立豊園小学校の真木先生、釧路市立寿小学校戸松先生の貴重な実践が紹介されている。）ここで注目しなければならないのは、「地域」に実践の場として重要な役割を担わせたところである。
本書では、今までの実践が外国の文物の紹介や理解に偏っていたことを認識し、地道な生活している地域にしっかりと足をつけた実践の必要性を強く訴えている。
そして、地域に素材を求めることで、けっして華やかな実践ではないけれど、自分の生活とその文化をしっかり見据え、自分自身を見つめ直す国際理解教育の実践の方向性をはっきりと示してくれている。
28の実践例は、多様な地域のひろがりと指導方法の多様性を我々に示している。そして、実際に我々が実践しようとしたとき、一体何を素材にし、そしてどのような活動を子供達と作りだしていけばよいのかたくさんのヒントを与えてくれる。まさに実践ハンドブックともいえる本である。　《中村 淳》

事務局会議から

１月２８日（土）に事務局会議が行われた。石狩大会の成果を確認しつつ、来年度の会の運営の重点について話し合われた。

- ９４年度の会務報告
- ９５年度以降の研究大会開催について
- 石狩大会のまとめについて（研究集録について）
- ９５年度派遣教員の研修会並びに激励会について
- ９４年度帰国報告会並びに報告集について

編集後記

全道の皆さんから送られて来た多くの実践のお便りを見るたびに国際理解教育の輪が確実に広がっていることを心から強く感じます。これからも、活躍されている皆さんの交流の場として紙面を充実させたいと思っております。また、今年度派遣される先生方の名簿をお知らせします。任地での活躍をお祈り致してます。

《斎藤吉文・中村淳》